

はばたき

大分大学教育学部
附属小学校便り No. 7
平成28年9月1日

2学期が始まりました

指導教諭 山田真由美

長かった夏休みが終わりました。子どもたちに

「夏休みは楽しかったですか？」

と尋ねると、

「おじいちゃんとおばあちゃんのところに行って、花火をしました。」

「川へ泳ぎに行きました。」

「プールでたくさん泳ぎました。」

などなど、笑顔いっぱいの返事がありました。大きな事故やけががなく、2学期を迎えられたことが何よりだと、職員一同喜んでおります。

さて、附属小学校では学期の始めと終わりに学年の代表の児童がその学期をふり返っての感想や今後の決意を述べてもらいます。

昨年度も子どもたちの素晴らしい発表内容を私たちだけでとどめるのはもったいないと思い、このはばたきで紹介させていただきました。今年も思いは同じです。次回号と2回にわたって、子どもたちの発表の内容を紹介させていただきます。生でお聞かせできないのが残念なのですが…。

今週は、7月の終業式で発表してくれた1, 3, 5年生の3名の子どもたちの発表内容を紹介いたします。



<1年3組 西海博通さん>

ぼくが1年生になってできるようになったことが2つあります。

1つめは無言掃除です。最初はカクカクぶきをしていると、すきまがあつて上手にふくことができませんでした。そんなぼくに、チームの5年生と6年生がやさしくふき方を教えてくれました。毎日教えてくれたので、今ではとっても上手になり、自信もつきました。だから、

「ありがとう。」

と、言いたいです。

2つめはあいさつです。ワンストップあいさつをして、大きな声であいさつができるようになりました。だんだん先生や

友だちに進んであいさつができるようになり、5年生の先生に「上手ですね。」

と、ほめられたので、すごくうれしかったです。

2学期はさらに無言掃除やあいさつに頑張つて進んでいきたいです。

<3年1組 平井梨咲子さん>

わたしが1学期に頑張つて心に残つたことは、チーム掃除です。3年生になって、毎日掃除はチームでするようになりました。それで、先生に言われたのが、

「3年生にはとっても大事な役目があるんだよ。6年生は全体的に見て、5年生は1年生に掃除を教えて、4年生は2年生に掃除を教えて、そして、3年生は1. 2年生のお手本をするんだよ。」



その言葉を聞いて私はびっくりしました。なぜなら、3年生は自分で考えて行動しないとイケないからです。

実際にしてみたら、少しむずしかったです。音を出してしまったり、ついしゃべってしまったりしました。だから、私は4. 5. 6年生のまねをして、お客様が来たときはえしゃくしたり、手伝ってほしいときは、身ぶり手ぶりをしたりしました。それで、1. 2年生は私たちのまねをしてよりよいチームになりました。

この活動をしたことで、私は自分で考えて行動する力がついたと思います。それに、お手本は3年生にしかできない特別な役目でもあると気づきました。

2学期になっても3年生にしかできないことを考えて、もっとよりよいチーム掃除にしていきたいです。

< 5年1組 井本 妃奈乃さん >

私が1学期成長できたと思うことは、発表する自信がついたということです。

私は発表が苦手でした。発表したいけれど、なかなか手を挙げてまでいう勇気がありませんでした。そんな自分を変えたいという気持ちがいつもありました。

5年生になって私は香々地実行委員になりました。香々地実行委員はテーマを決めて、みんなに提案したり、様々な活動について説明したりすることが主な仕事でした。そのため、人の前に立つことも多くありました。

はじめは、とても緊張していて少しのせりふでも、発表するときはドキドキしていました。しかし、何回も行うことで緊張やドキドキなどが少しずつ少なくなってきました。この時から、発表に対しての気持ちが変わり勇気が持て、自信を持って発表できるようになりました。

しかし、ある集会で先生から

「実行委員としての思いをみんなに伝えて下さい。」

と、言われました。その場で急にふられたので、みんななかなか思いを発表することができませんでした。私も言いたいけど、「どうしよう。誰かが言うかな?でも、ここで言いたい。」と、いう気持ちがくり返していました。私は今、今、今だという思いが強くなって自分の思いを発表しました。みんな真剣に聞いてくれて発表してスッキリした気分になりました。勇気を出していったことで、自信がつき自分を変えることができ、すごく良かったと思います。

これからも、この勇気を忘れず、他のことにもたくさん生かしていきたいと思います。



全校で力を入れて取り組んでいるチーム掃除をはじめとした、異学年での関わりが、子どもたちの成長に大きな影響を与えていることがわかります。低学年の子どもたちは高学年の児童と関わることで「あこがれ」や「感謝」そして、「自信」をつける姿が、中学年の児童は教える方でも教えられる方でもないことを自覚し「自立」への一歩を踏み出した姿が、そして、高学年の児童は学校のリーダーとして「責任」を自覚し、「自分を変える」姿が、それぞれ発表されました。このような姿は代表の児童だけではなく、多くの子どもたちに共通する姿でもあります。

そのような姿は、日々子どもたちの様子を見ている中で感じていたことではありますが、このように言葉として、文字として表現されることで、私たちもより一層実感することができます。

おそらく御家庭でも子どもたちの変化を感じられている保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

次号は始業式で発表してくれた2, 4, 6年生を紹介いたします。